

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



### 支那農村經濟問題

(一)

W 生

農村經濟問題が現在に於ける世界共通の大問題で各國とも之れが對策に就て非常に頭を悩まして居る、殊に支那の現状から見て此の農村經濟問題ほど重要性を帯び且本質的な社會問題ではないと思ふ。

山來支那は農を以て國を樹て農業に従事して居る者は全國人口四億五千万人中約三億三千六百萬の多數に上り總體の約七割五分を占めて居る、故に農村經濟問題が國民經濟問題であり又支那人民の民生問題である。此の點より見れば支那農村經濟の崩壞的現象は政治、經濟、教育、財政等あらゆる部門に亘る破局的現象を意味する。

夫れ故に國民黨々治は民生主義に重きを置き農民問題をその主要對象として所謂國是なるものを樹立し訓政時期の約法には特に農業生産の遞増を以て國計民生の唯一の途とさへ規定した程であつた、然るに爾來幾星霜農民の困苦は年と共に加はり打撃、世界經濟恐慌の余波揚て加へ

て飽く事なき軍閥官僚の苛斂誅求、貪慾極りなき奸商地主の搾取共產黨の跋扈は遂に農村經濟の現實的崩壞過程にまで衝き進ませその間幾多の社會問題を惹起し甚だしきは蘇、浙の如き支那第一の富裕の地にすら再三農民暴動の勃發を見るに至つた況んや各省各地の農民の窮迫はその極に達し轉徙流亡正に農村の危機國本の動搖を來さんとしつゝあり。

### 一、帝國資本主義の經濟侵略

蓋し支那に於ける農村經濟の崩壞的現象は近年に急にその趨勢を加へたものではなく因つて來る宿弊の結果で現實の破局的現象は寧ろ當然の過程であると認めざるを得ない、その主因を探求し見るに

支那は一八四二年阿片戰爭に敗れて已むなく往時の鎖國主義を放棄し門戸開放をなして以來各國の帝國主義は不平等條約を護符とし支那に經濟侵略政策をとり盛んに侵略し來り其の間支那の諸外國と事を構へては

編輯須田圭二 發行所 長野縣上野市 蠶絲專門學校 蠶絲部 蠶絲會 長野市南町 蠶絲株式會社

山本三六郎著 化學純絹絲の工業的完成 ¥0.30

蠶絲科學研究會編 伊太利蠶絲絹業の現況 退原因と其の改良 菅原勇治著 ¥1.50

蠶絲業法規要論 改正 ¥2.30

市田上縣野長 會究研學科絲蠶 所行發 (振替長野6413番)

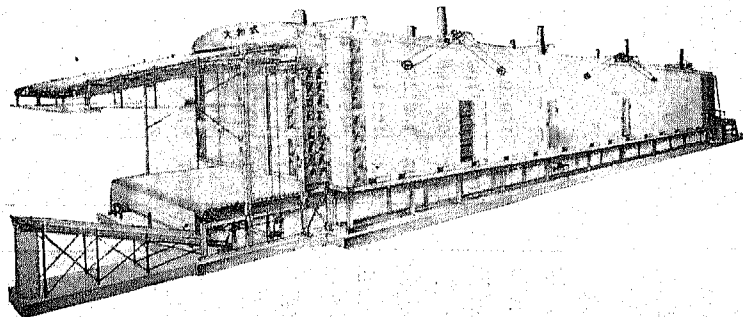
事毎に失敗し土地を奪はれ其上莫大の賠償金を課せられ而も帝國主義は支那の紊亂に乗じ權益保護を名として駐兵、砲艦政策をとり支那をして一種の殖民地的社會の秩序を立てしめ更に支那の軍閥を利用して獨裁權を確立せしむる方法をとり剩餘資本の投殖を圖り支那の利權、有望な事業は悉く剝奪し去り孫文の一九二四年の調査によれば支那が年々帝國主義に進獻する金は優に十二億元以上に達すと嘆せしめた程である。

支那は帝國主義侵入前は自給自足の自然經濟なりしも帝國主義侵入後は漸次商品經濟に移り更に貨幣經濟と化し農民の生産は自家のための生産でなく全く市場のための生産即貨幣と交換するのが目的となり従つて支那の農民は帝國主義者に安き原料を供給しその代り帝國主義の高價な製品を購入し年一年富は奪ひ去られたのである。

### (1) 莫大な賠償金

抑も支那が外債を起した初めは莫大な賠償金の支拂に窮してから其の後は財政逼迫毎に各國に借款を申込み其の代償として利權を提供し有望な事業は大抵國際帝國主義者の手に歸し自國産業の發達を阻害する事

### 現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



1933年代表型

製作發賣元 株式會社 大和三光商會 東京京橋區京橋三丁目二番地 電話京橋(56)五三二〇番

【製鐵贈呈】

甚大其の上莫大の賠償金は直接間接農民の負擔となつた。

支那が阿片戰爭以來義和團事件まで各國に仕拂を強制された賠償金の主なるものは大体次の如し。

- 阿片戰爭 二、一〇〇萬元
- 英佛聯合軍との戰爭 一、六〇〇萬元
- 露支イリ一戰 九〇〇萬元
- 日清戰爭 三億
- 義和團事件 四億
- 五、〇〇〇萬兩

### (2) 商品の掠奪

十八世紀産業革命以後は機械大量

- 營業課目
- 特許大和式自動輸送乾燥機
  - 特許大川三光式乾燥裝置
  - 特許特願やまぜホイロ機
  - 特許大和式熱湯自動還元機
  - 特許水野式改良ロストル
  - 特許アイエム・コルセー
  - 特許アイエム・ストーカー

生産となり産業後進國たる支那は國際帝國主義者のダンピング市場となりその爲め支那從來の幼稚な手工業は徹底に破壊され同時に支那の關稅協定は完全に自主出來ざりしがために外來の商品に對し適當の制限を加ふる事が出來ず各國の商品を自由自在に自國內に濶歩するまゝに放任し遂には唯に工業方面のみならず農業生産にすら國內需要を充たすに足らず米、麥、麥粉の輸入年額一億五千萬兩棉花年額一億乃至一億八千萬兩に達するに至つた

最近の支那農村の狀態を見るに  
 (イ)耕地の減少と荒地の激増  
 (ロ)農産物就中米、麥、麥粉、棉花等の輸入の激増  
 (ハ)農村主要副産物生糸、茶、油類等の輸出の激減

(一)主要輸入品順位

順位	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
第一位	棉製品	同上	棉花	同上	同上
第二位	米	砂糖	同上	棉製品	同上
第三位	棉花	石油	棉花	米	同上
第四位	砂糖	棉花	石油	砂糖	同上
第五位	石油	米	麥粉	石油	同上
第六位	紙	米	紙	米	同上
第七位	魚介	麥粉	紙	麥粉	同上
第八位	石炭	紙	紙	紙	同上
第九位	烟草	紙	紙	紙	同上
第十位	棉糸	染料	木材	木材	機械

輸入主要品は何れも日常生活必需品にして假令之に關稅障壁を設くるとも近き將來に於いて支那國産品が國

(二)主要輸出品順位

順位	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
第一位	生糸	同上	豆	生糸	豆
第二位	豆	同上	生糸	豆	生糸
第三位	植物油	同上	植物油	落花生	同上
第四位	棉花	同上	植物油	豆	同上
第五位	生皮	同上	植物油	生皮	同上
第六位	卵	同上	茶	種子物	茶
第七位	茶	同上	茶	種子物	茶
第八位	石炭	同上	茶	種子物	茶
第九位	網物	同上	茶	種子物	茶
第十位	同上	同上	茶	種子物	茶

支那は年々輸入超過國で外債及華僑の送金で漸く決済をつけて居つたが最近世界經濟恐慌の影響を受け華僑の送金は大激減を來し而も輸入は依然として増加しつゝあり。

Value of China's Import and Export Trade. (Unit T1000)

(ニ)農村手工業の壞滅  
 (ホ)農村離村者の激増  
 等は如實に之を物語り又年々の對外貿易の結果は明かに之を證明して居る次に支那の主要輸出入品を擧げて見る

(数字は百萬海關兩)

Year	Import		Export		Total	
	Value	Index	Value	Index	Value	Index
1864	51,294	100	54,007	100	105,300	100
1865	61,844	121	60,055	111	121,899	116
1870	69,291	132	61,682	114	130,973	124
1875	67,503	135	68,913	128	136,416	130
1880	79,293	155	77,884	144	157,177	149
1885	88,200	171	65,006	120	153,206	146
1890	127,092	248	87,144	161	214,236	204
1895	171,697	335	143,293	265	314,990	299
1900	211,070	412	158,997	294	370,067	351
1905	447,101	872	227,888	424	674,989	641
1910	482,905	903	380,833	705	863,738	801
1911	471,503	919	377,335	689	848,838	806
1912	473,097	922	370,520	686	843,617	807
1913	570,163	1211	403,036	746	973,199	923
1914	569,241	1209	356,227	659	925,468	878
1915	454,476	885	418,861	775	873,337	829
1916	516,407	1006	431,797	890	948,204	938
1917	549,519	1070	462,932	857	1,012,451	961
1918	554,893	1081	485,883	898	1,040,776	983
1919	646,998	1251	630,809	1167	1,277,807	1213
1920	762,250	1486	541,632	1002	1,303,882	1238
1921	906,122	1766	601,265	1113	1,507,387	1432
1922	945,150	1842	644,892	1212	1,590,042	1519
1923	923,401	1800	752,914	1304	1,676,315	1572
1924	1,038,211	1985	771,784	1429	1,810,000	1710
1925	947,865	1847	776,353	1437	1,724,218	1637
1926	1,124,221	2181	864,295	1600	1,988,516	1888
1927	1,012,132	1974	918,620	1700	1,930,752	1834
1928	1,195,969	2331	991,355	1835	2,187,324	2077
1929	1,265,779	2467	1,015,637	1880	2,281,416	1977
1930	1,309,756	2533	834,844	1638	2,144,600	2033
1931	1,427,774	2814	887,471	1924	2,315,245	2213

China's Import Excess. (Unit HKT 100)

Year	Excess		Year		Excess	
	Value	Index No.	Year	Value	Index No.	
1921	102,576	100	1923	170,435	166	
1913	166,357	162	1924	246,426	240	
1914	213,014	207	1925	171,514	167	
1915	35,614	35	1926	259,926	253	
1916	34,609	34	1927	34,298	91	
1917	86,587	84	1928	204,614	199	
1918	69,010	67	1929	250,031	243	
1919	16,188	15	1930	414,912	404	
1920	220,618	215	1931	534,014	514	
1921	304,866	297	1932	396,215	386	
1922	230,157	233				

國際收支の逆調は益々國民經濟の窮乏を加へ國民經濟の窮乏は生産力の減退と商業活動力を萎縮せしめ夫れが更に財政危機となり重税となつて現はれて來る而して重税が農村經濟の疲弊を促し層層國民經濟の破局的現象を痛烈ならしめて居る。

(3) 企業の剝削

一九一八年歐洲大亂の終結と共に帝國主義者は半殖民地として發達し來りし支那に其の余力を伸ばし不平等條約を護符とし續々投資をなし或は各種の借款に應じ利権を爭奪する様は恰も小羊を多數の狼が争ひ食ひ喰ふのと何等の變りもなかつた即ち鐵道航業方面に投資して

支那の交通機關を壟斷し  
 支那の工業を凋弊し  
 支那の金融界を操縦す  
 銀行團の投資により

同時に支那の低廉なる勞力豊富な原料並絶大の消費市場を控へて居るのを利用し各國帝國資本主義は支那内地に諸工場を設け支那勞働者の勞力を奪ひ遂に支那生産機關の大半は國際帝國主義者の經營となり此の種企業の剝削は悉く直接間接に農民の上に加へらる次に列國の對支投資額を擧ぐれば

- 列國の對支投資
- (イ) 投資形態別 (一九三一年度現在 單位百萬金弗)
  - 政府債務 (借款その他諸債務) 三三三(三三%)
  - 事業投資 二六六(六七%)
  - 計 六九九(一〇〇%)
- (ロ) 投資部門別 (一九三一年初現在 單位百萬金弗)

政府の一般外債(所謂政府借債)

治借款	四六、七(三、八%)
運輸業	八三、五(七、五%)
公共事業	二二、一(三、五%)
鑛業	二六、五(三、五%)
製造工業	四九、八(三、五%)
銀行金融	三三、六(三、四%)
土地其他不動産	二六、一(九、三%)
商業	三六、三(二、四%)
雜	三三、八(九、九%)
計	三、一七四、三(一〇〇%)

(一) 國別(一九三一年初現在、單位百万金弗)

英國	一、三六	毛七%
日本	一、二五	四、三%
露國	一、一〇	一〇、一%
佛國	一、〇〇	五、七%
獨國	〇、八〇	五、六%
伊國	〇、七〇	一、八%
和國	〇、五〇	一、四%
スカンデナ	〇、四〇	〇、七%
ビヤ諸國	〇、三〇	〇、六%
計	一、三六	一〇〇%

各國帝國資本主義の影響を受け支那にも漸次資本主義生産の發達を見られ、日貨排斥と關稅の増徴により國貨産業は近年著しく伸長し紡績の如きは日本及英國製造品と鋭く對立するまでに至り支那烟草(華僑の投資)は英國トラスト支那マツチは瑞曲トラストと對抗しつつあり、齒磨粉は日米品を壓倒し石鹼珪礬ベントワニス蠟燭等は遠からず外國品を驅逐し得ると稱して居る。

乍然新興支那資本主義は生産の規模資本の力が極めて小さく中國銀行の張公權は支那の工業總資本は僅に

二億元を足らずと發表して居る中國航空公司、南洋兄弟烟草や製糖、紡績等特殊のものを除けば何れも幼弱で資本の集中生産の集積の資本運動は未だ起るに至らない。

支那工業の中心上海に於ける工業

### 北滿經濟發達の概要

本稿は蠶絲業とは別に縁故なきも日滿關係は日々に深厚を加へつゝある今日多少なりと諸兄の御参考にならばと思ひ投稿致しました。

本稿は當地商工會議所の調査を參考としました。

北滿經濟發達の跡を辿るに(一)東支鐵道の開通に依つて露國人が經濟開發の役目を擔ひ其勢力を振つた時代から(二)歐洲大戰當時日本が經濟界の牛耳を握つた時代を経て(三)支那官民が利權回復に奮起し横暴を極め盛に外人の既得權益を侵害し遂に滿洲事變勃發に至らした時代次で(四)滿洲事變後の現狀に至る變遷を種々と謂ひ得る。今上記各時代に於いて其概況を述べん。

#### 一、東支鐵道開通

一八九六年(明治二十九年)五月露國は支那政府との間に露清同盟密約を締結し、黑龍江省及吉林省を經由し西比利亞鐵道と連絡して浦鹽港に至る鐵道を敷設せしむることに同意せしめ次で一八九八年(明治三十一年)七月東支鐵道南部支線の敷設及經營に關し支那政府の承諾を得た。露國が東支鐵道敷設工事に着手し

狀態を見るに上海事變前にて工場數一、七七一其の資本は五千元以上五千元以下の小工場が多數を占め資本金三百萬兩以上の大工場は僅々六家に過ぎざる貧弱さである。

(以下次號)

#### 在哈爾濱 清水 衛 敏

たのは一八九八年(明治卅一年五月)で一九〇二年(明治卅五年)末には滿洲里、綏芬河間の本線並に哈爾濱、旅順間の南滿支線及撫順、大連、煙台、營口の諸支線、總延長約二千六百軒の大鐵道敷設工事を終了し全線の假營業を開始した、而して該鐵道の敷設工費は實に四億圓に達したと稱せられて居る。

即ち露國が滿洲に於て政治經濟上の實勢力を表はし始めたのは明治卅四五年から露國は東支鐵道を根據地として極東侵略の野望を遂げんとし其魔手が將に朝鮮及日本を脅かさんとするに至つて日露戰爭を惹起せしめた。而して露國は日露役の慘敗に因り寬城子以南の東支鐵道南滿支線と關東廳租借權を日本に割讓するの止む無きに至り南滿より手を引き其勢力を北滿に後退するの餘儀なきに至つたが、北滿に於ける露國の勢力は其後も依然旺盛で大正六年露西亞國に所謂十月革命の勃發せる頃迄繼續した。

此の時代滿洲に於ける日本の勢力は日露戰爭後も關東州及滿鐵沿線外に出でず支那亦露國勢力に壓倒せられ見る可きもの無く北滿に於ける經濟界は徹頭徹尾露國の獨舞台であつた。

即ち露國は東支鐵道を恰も自國領土の延長の如く振舞ひ其の鐵道附屬地に於ては行政、司法、警察、教育及通信等の諸權を把握し主要地には守備軍を配置し自國勢力の擴張に努めた、而して經濟的には東支鐵道を利用して浦鹽繁榮政策を執り南部線には世界無比の高率運賃を課して南路輸出入貨物の回滑なる交易を阻害して自國生産品の輸入を圖ると共に輸出品を浦鹽に集中せしめ自國人の企業營業助長策を講じ又陸路通商章程を締結して露支國境五十露里地帯を無稅區域と定めて國境地方に於ける生産工業の發達を促し或は同章程中に多數の自國製品に對する無稅品を制定する等傍若無人の行動を爲し居たりしが日本及支那共に之に對抗するに全く無策であつた。

當時北滿に於ける通貨は鐵道沿線は素より鐵道から可成離れた所でも留紙幣のみが流通し諸物價の建値も總て留紙幣であつたに依つて觀るも如何に露國の勢力が行き渡つて居たか、知れよう。

大正三年歐洲大戰勃發後露國は其國力を西部地方に傾注し漸次極東を顧るの邊がなくなつたが、大正五年七月締結された日露秘密條約に依つて日本の保證を得たる爲め極東露領の保全並に北滿に於ける露國の權益には不安が無かつた、一方日本は該條約に依り極東露領及北滿に威力を示すと共に政治的勢力の北進する事を得、經濟的には露本國の生産工業が戰時動員され日用諸物資が異常なる缺乏を來せし爲め一時的乍ら日本

商品は米國品と共に盛に歐露に輸出せられ、哈爾濱及長春(新京)は露國向け日本商品の中心市場と化し、又從來北滿地方に覇を唱へた露國及獨乙製品は影を潜めて日本品が之に代はる事が出來た、次で大正七年八月日本軍西比利亞出兵に伴ひ邦人の北滿に來住する者激増し金融貿易企業等孰れも目覺しき活躍を示した。

朝鮮銀行票が哈爾濱市場に流通し始めたのも此の時代からである。

然し日本が北滿に於て勢力を振ひ得意であつた之の時代は永續せせず、大正十年に日本軍が北滿及西比利亞方面より撤退せる頃から漸次其勢力の衰退を來すに至つた。

此時代支那側は北滿に於ける露國權力の壓迫を策し、米國の支援を得て大正六七年頃より非々潛行的運動を始め出した又北滿地方に於ける通貨は久しく留紙幣に斷絶せられて居たが歐露の革命勃發以來該貨幣の大慘落を來せる機會を利用し且つ朝鮮銀行票の普及に刺戟され支那は北滿經濟界に自國通貨を普及せんとし大正八年九月、中國及交通の兩銀行をして「天津及上海向銀爲替銀取紐に應ずるも哈爾濱に於ては兌換せざる國幣券」なる准兌換券を發行せしめ其紙幣面に「哈爾濱」の文字を捺印流通せしめた。

是れ即ち所謂哈大洋票であつて該貨幣が北滿に於ける通貨として其機能發揮するに至つたのは大正九年海門にて其受入を開始せると、同年五月から東支鐵道が其金留建運賃を換算して哈大洋にて受入る事となつたからで爾後北滿に於ては留紙幣に代り抜く可からざる勢力を保持して居る(現在も尙哈大洋は滿露人間に盛に使用せられて居る)。(以下次號)

選科修了者の資格に就て

東京 H 生

去る八月十六日の官報で豫て懸案となつてゐた、上田の選科生に關係ある農林省訓令及告示の改正が左の如く公布せられた

農林省令第一號

蠶絲業法施行事務取扱規程中左ノ通改正ス

昭和八年八月十六日

農林大臣 後藤文夫

第二條第二號ニ(ハ)トシテ左ノ一項ヲ加フ

(ハ) 實業専門學校ノ養蠶科又ハ蠶種科ノ選科生トシテ蠶體解剖學及蠶體生理學、蠶體病理學、養蠶學、蠶種學、栽桑學、蠶體解剖學及蠶體生理學實驗、蠶體病理學實驗、養蠶實習、蠶種學實驗、蠶種製造實習、圃場實習ヲ修メタルモノ

農林省告示第二三九九號

昭和五年一月農林省告示第五號中左ノ通改正ス

昭和八年八月十六日

農林大臣 後藤文夫

第一號中(ニ)ヲ(ホ)トシ(ニ)トシテ左ノ一項ヲ加フ

(ニ) 實業専門學校ノ養蠶科又ハ蠶種科ノ選科生トシテ蠶體解剖學及蠶體生理學、蠶體病理學、養蠶學、蠶種學、栽桑學、蠶體解剖學及蠶體生理學實驗、蠶體病理學實驗、養蠶實習、蠶種學實驗、蠶種製造實習、圃場實習ヲ修メタルモノ

第二號(イ)中(ニ)ヲ(ホ)ニ改ム 農林省訓令の方は蠶絲業法施行事務取扱規程第二條の改正で、同條は蠶種製造者又は蠶種製造管理者の資格中の「蠶絲學ニ關スル知識經驗アル者」の取扱であるが、從來専門學校の選科生は同條第三號中に包括せられて、選科修了後尙二年以上蠶種製造の實務經驗を要したのであるが本改正に依りて同條第二號の一に該當するものとなり、一年以上の實務經驗で足ることになつたのである、

岐阜への旅

碓氷 茂

尙今回は等規定改正の動機は、一昨年上田の針塚校長から照會があつたのに基くので、モント早く實現する筈が今日に及んだのである、而も現在では上田の學校が必要に迫られて居るのであるが、他の専門學校でも之に該當するものあれば之に包括せらるゝ様上田蠶絲専門學校と指稱せず、汎く實業専門學校と規定した次第である。

東京から岐阜といへば近いやうで遠い。岐阜も場所によつては東海道を行くよりも、中央線で新宿から甲府鹽尻と徑て、木曾谷を下つて行つた方が近い。僕の行かうとするのは岐阜縣の中津町だ。ここは木曾路を行く方が東海道を行くよりも遙かに近いのだ。

東海道を選ぼうと思つたが、山の中を行つた方が遙かに涼しいだらうと考へたがため中央線にした。尤も山の中を選ぶと、陰道の煤煙は閉口だが、中央線が新宿から甲府迄電化されたので、却つて涼しいから山の中を選ぶ氣にさせられたのだ。

その通り列車の旅は涼しかった。甲府を経て鹽尻へ這入つた頃はもう暗くなり始めてゐた。惜しくはあるが木曾路は夜の旅であつた木曾は福島でねた。涼しかった。七月といふのに未だ蚊帳がいらぬのだ。

朝見たら木曾川の水が美しく澄んでゐた。一夏をこのやうな美しい水を見て送つて見たいと思つた。

中津川、實は中津町へ着く。組合製絲聯合會濃飛社へ行く。ここに産業組合中央會岐阜支會の主催にかかると降りもしない。這入れ、這入れ、といふ。それから其所へ。

次の日(七月九日)多治見で下車して美濃太田行き汽車の發車を待つてゐると、フイに、知つてゐる顔が一つ目の前へ現れた。その人は岐阜の縣廳にゐられる上原清夫技師であつた。手には白樺の杖をついてゐる。

「昨日松本で養蠶業組合の協議會があつてね、そこへ行つて来たよ」 「ステッキは何ですか、登山でもされたやうに見えますが」 「昨日は實は上高地で會があつたのだ。」

「何處へ行くかね」 「關町まで行きます。長良社を視に行きます。上原君はこれからどちらへ行かれますか」 「太田に今日は技術員會議があつてそこへ行くことになつてゐるね」 「さうですか。太田まで御一緒にお願いします。」

「あそこに見えるのに何んですか」 「あれは那是の美濃工場だよ」 「さうですか。大變田園の中ですか」 「あそこに山本君がいるよ」 「山本奈良三郎君ですか」 「さうだ。君は山本君を知つてゐるかね」 「え、同期でした。……久しぶり

だから電話をかけて見ませう。」 さうして驛前の宿屋から電話をかけたら自動車で山本君がやつて来た。自動車から降りるかと思つてゐると降りもしない。這入れ、這入れ、といふ。それから其所へ。

空は夕立空間もなく雨がザンザン降つた。山本君のとめるのも聞かず關町へ。今日關町迄行つてくかないと翌日の都合が大變悪いのだ。關町に組合製絲長良社がある。現代的の建築を誇る三百餘の堂々たる工場である。屋根は鋸屋根、一見紡績工場と見える。又女工さんは總て洋装で紡績女工そのまゝである。

設立後まで日は浅い。その將來は未知數であるが、彼の昭和五年以降の瀕瀕の大落際に際し、縣が莫大な補助金を支出して、この近代式工場を建設したといふことはその意味に於て大いに意味がある。

夜の九時頃關町から電車で岐阜市へ。 九日の暑苦しい夜は岐阜の宿で明けた、電車で長良川方面を指して進む。電車は長良川を渡つた。長良北町といふ畑の中の停留所で停車。ここで下車して、途を尋ね尋ね蠶業試驗場へ行く。古い建物である。もう既に各務ヶ原の飛行隊の近くへ移轉するのだといふ。もう二十年もの間使用したといふので、スツカリ朽ち果てゐる。この試験場では種付け労働が濟んだところであつた。どこの蠶業試験場もさうらしいが、この試験場も試験はオロカ種付け作業に追はれてゐることに代りがない

やうだ。

ここには宮川君がある。最近赴任した許りの北澤周一さんもここに...

この春までこの試験場にゐた柏倉豊吉さんが病気でこの附近に静養してゐられるといふ話、急に訪問して見度くなつて訪問した。...

名刺を出すやと奥さんが「千曲時報をよく存じてをります」とおつしやられた心は閉口。氏の容体は快方へ進行を續けてゐられるから、氏が再び活躍される日は遠くあるまい。氏の速かに全快されんことを祈る。

縣廳を訪問、上原技師や松井君に面會、松井君に連れられて岐阜市外の島村へ行く。ここには繭檢定所が新設されてゐる。所長は高内鐵彌さんである。高内さんも多忙だ。縣の方へも出なければならぬし、檢定所の探配も振らなければならぬし。檢定所は明るくユツクリ出来てゐる。この檢定は正確であるといふ

ので評判だつた

最初女工さんの採用試験を行つたところが女學校を出た娘さん達が、檢定所の仕事を遊び半分の仕事と心得て應募したのは手を焼いたとの話であつた。そこで方法を變へて組合製絲工場から優良な女工を引きあげて漸く陳容を整へたといふ話。

序でに直ぐ隣りの美濃乾繭倉庫を尋ねる。これも例の大正五、六年の繭價の下落に際し、縣が繭價政策の一つとして長良社と共に設立したものの一つである。これ又素晴らしい大仕掛けである。これに對しても高内さんやその他縣の人々の拂つた努力は大したものであるさうな。組合長さんに案内されて荷受場、乾繭場、貯繭庫等を一巡した。

松井君に連れられて辨天町の日本製絲を尋ねる。この場長さんは小林茂樹さんである。電話をあげておいたのでわざわざ待つてゐて下さつた。小林さんは繭の買入れが未だ済まぬので、繭の賣込みに來る人達の來訪を受けたりなどで、非常に多忙である。小林さんの話によれば美濃乾繭倉庫の大きなトクイであるとのことである。小林さんの案内で場内を一巡した。

ここから同じ市内の鐘紡製絲へ轉任された湯澤重敏さんに電話をあげたら、待つてゐる、行くからといふ電話であつた。湯澤さんとは、京都にゐる頃、京都千曲會の用事で時々お逢ひした。何かの用事で、鐘紡山科工場の社宅へ湯澤さんを尋つて行つたこともあつた。

湯澤さん待つ間、工場の風呂などを使用させて頂いた。

その晩小林さん、湯澤さんに連れられて長良川の長良川畔ホテルへ行つた。市營長良川ホテル。ここに阿房宮といふ一棟がある。勿論奏の始皇帝の榮華にならつてつた名である。ことほど左様に贅を極めてゐるがこの阿房宮だ。何とかいふ百萬長者が、その黄金時代金に委せて作つた家であるが、その没落と共にこの阿房宮も人手に渡つて了つたのだといふ。夢物語そつくりである。家は餘り大きいといふのではない。寧ろコテンマリとしてゐる。コック君に案内されて阿房宮を見て廻つた。階段の手摺りの一つの棒に至るまで、七寶などでもちりばめてある。よくも考へて金を使つたものだ。と思はれるほどだ。金の使ひ方には幾通りもあるものだ。

岐阜へ行つた者は必ず一度は長良川ホテルの阿房宮を訪ねるべきである。殊に長良川ホテルは新婚のボツチャン夫妻が、その初夜を過すべく作られた立派な部屋があるから、金に恵まれた若夫婦は初夜を長良川ホテルに過すのがよからう。

「コックサン。新婚初夜といつたやうな一對が見えるでせうね」と案内のコックさんに、新たに新築された方の洋館を案内して貰つてゐるときに尋ねたら

「エ、」と意味ありげな笑ひを笑つて見せた。それにしても長良川ホテルは最もいゝ場所を占めてゐる。殊に、今時

のやうな夏には最もいゝ場所といふものだらう。その晩はこの邊へ鵜飼ひの船が着くのだとのことであつた。成る程はるか上の方に點々光つてゐるものがある。勿論それは鵜飼ひの篝火であるに相違ない。その篝火をめぐりて幾つかの小船が登つて行く。何れも皆遊覧船である。長良川ホテルの客人達も、幾群れか、遊覧船に乗つて出かけて行つた。

### 八年八月八日 蒲生教授を迎ふ

奈良縣 久三生

古都奈良は三笠山、大佛さては皇祖發祥の地と歴史上有名なので三尺の兒童もすぐ腦裏に浮ぶ縣だらうと思ふ

處が我々のパンに關係の深い蠶絲業の狀態は尻から敷いた方がすつと早い、だが然し繭の産額と云ふ事では蠶絲業の諸機關や繭質などに於ては決して左様にあらず

論より證據東海道線を素通りせず奈良の大佛を見に來て、其の方面も研究したら直ぐ判る事だから説明は省く事にする

それまでは良かったがその案内たるや至極成績不良だつたんです。縣廳でお互が別室で待ち合ひの競争する事一時間半、其間こんな考が浮んで來た僕は製絲科で在學中先生に教つた事もなければ話もした事はないが顔は良く知つてゐる。校長の還曆祝の時も一所に寫眞をとつておるし顔は良く知つてゐる、然し先生は僕を知らないだらうと云ふ様な事だつた

蒲生先生は九時半頃來寧縣廳に立寄る事になつておつたので久三龍出で勸業課と云つて長野縣なら商工課蠶絲課、農務課、産業組合課と云ふ四つの課を一緒にしたと云ふらい課で友人と話し合ふ事一時間半

來たら必ず勸業課へ顔を出す譯だといふので居た、然し一向に見えないので不思議に思ひながら別室の取締所に行つた

戸を開くや否や先生曰くや...今役所へ電話をしたら君が迎えに行つて居ると云ふので待つて居たのだ。久三頭香久山。完く世にも稀なる競争をしたものだ。時刻十一時これ待ち合ひ競争一時間半にして終を遂げたのです

き返し奈良縣在住の同窓生の參集所  
竹葉亭に夕の六時頃ついた。

先づ第一に集つておる同窓生に挨拶をなし風呂をあび盡の疲れを洗ひ去つた。御馳走は無くとも膳に向い

上田の話、母校の話と盡くするを知らなかつた、酔が廻るにつれ意氣な聲

品良い手踊まで出て十二分の歡を盡した。それでも若い連中は未だ未練があつたらしかつたが時刻が時刻なので散會する事にした、時に午後十一時。

久し振りに信州情緒を味つたと皆々大満悦の態。最も用件が用件だつたので京都出身の場長も入り同窓會と云ふ譯では無かつたが准同窓會と云ふ形になつてしまつた。因に出席者は鈴木孫市氏。式田定千代氏。山田保士氏。吉川知則氏。及櫻井卓三の五氏。

欠席者は藤井料氏。本多懋氏。竹之内不可止の三氏。それでは右八氏の近況を紹介して筆を擱く事にしよう。

鈴木孫市氏(絲四)

本縣唯一の組合製絲の現業長。製絲業はなんと云つても投機的事業だ組合製絲と云えども其の邊に意を注ぐ要があると意氣あたるべからずです。

神戸に行つた時は何時も生絲検査所の竹内技師と相場を研究して来る由。

今年には營業振の良好と相場場でどえらい儲けで大部鼻が高い。

式田定千代氏(蠶五)

本縣出身の人で色々私共に教えて下さる親切な人だ。今は縣の長期派遣になり三郡の養蠶奨励に努力中。本年四月長男が父の出身校成徳中學校に入學して成績優秀の由。

子供は上田に入れぬらしいが難局に立つ蠶絲業は斯ふ云ふ人に入學して貰ひたい。

山田保士氏(絲十八)

本縣唯一の營業製絲の現業長。母校で應援團長をしたそだが仲々に元氣者。

宴會後は吉川氏とカフェー廻りをしたらしい。若い中が花だ、さぞか

謹啓

炎暑の候益々御清穆奉慶賀候陳者私儀先きに父を失ひ本年三月亦母死去致し家庭の事情辭職の止むなきに立ち至り候爲め豫てより桂冠を願ひ出で居候處漸く七月二十七日附を以て聽許せられ愈々退職致すことに相成候

在職中は公私共深厚なる御懇情を辱し御蔭を以て大過も無く奉公を全う致すことを得候段誠に感謝に不堪次第謹で御禮申上候尙は將來共倍舊の御交誼を賜度御願申上候

先は御禮旁々御挨拶申述度如斯御座候 敬具

田中 福雄  
千葉縣東葛飾郡行徳町關ヶ島一三  
昭和八年七月三十一日

吉川知則氏(絲十九)

繭檢定所に自宅より通勤、將來重要視せられておる繭檢定事業を鋭意研究中として他日雄飛の目を待つておる、父母の膝下から通勤出來るとは羨しい事だ。

なんと云つても獨身で男前だけに當所でピカ一とはやさんの事だらう

櫻井卓三氏(絲十二)

繭の檢定に従事しておる事五ヶ年

お蔭で本縣の名所舊跡を暇々に巡遊する事が出来喜んで居る。近頃俳句を初めたが尺八も誦も物にならぬ處から見たら俳句もどうやら俳句にならぬらしい、それでも熱心に下手な字で毎日十七文字を綴つて居る、下手の横好きはこの事だ。

藤井料氏(絲五)

生憎宴會には出張の爲出席する事が出来なかつた。

本縣乾繭倉庫、組合製絲、繭檢定所創設の功勞者數年前迄奈良氏はP氏オンリーワンの處今日此の多數たらしめたのも同氏に負ふ處大である。

蒲生先生の來た日は組合製絲に關する夜の講演の爲吉野郡の奥の方に

行かれた、情の人なる事は定評だが又熱の人だ。今は一日おきに檢定所と縣廳勤務だ。

檢定所は所長格で人事會計事業一切を切り廻して居る、縣廳にあつては製絲業法に關する事の乾繭事業製絲業の奨励等本縣只一人の製絲の技師で忙しい體だ、この六月恩給がついたので泰然自若たるものです。

本多懋氏(絲十九)

郷里新潟に歸郷中の爲欠席、製絲業の免許で此の春赴任。沈黙を守つておるので當業者は偉い人だと思つておるらしい。「口は禍のもと」とか「物云えは唇寒し秋の風」とか良く云ふが取締に従事する人には適材適所と云ふものでせう。

竹之内不可止氏(蠶二十)

病氣の爲欠席。蠶業取締事務に従事、夜はマンドリンで無聊を慰めておる由、前途有爲の技術者である、終りに准會員二名をついでに紹介しませう。

半田ひさ子嬢

上田の實科高女卒で才色兼備、蠶事を出て九州で製絲業の實狀を研究する事一ヶ年をして本縣に赴任して繭檢定事業に従事して居るが月日の流れは早いものだ早や二ヶ年。

小宮山嬢

昨年オランダで女流選手として世界の繪舞台で万丈の氣を吐いた眞保正子嬢は上田出身ですよなどと紅の氣焔をあげるが然し女だモダリ

日本や婦人俱樂部を讀み耽り其の日の無聊を慰めておるが郷里上田の夢を見ぬ晩は無いと。一日と歸田の日は近寄る待つ日ぞ樂し。

上田高女出身、鈴木孫市氏の組合製絲に二、三ヶ月前敷婦として着任セリブレインの向上、能率の増進に精勵中、郷里はやはり上田だそう

だ。技師の話に家に歸りたがうて泣いてばかりいるとの事だ、然し會つて話して見ると仲々に元氣者そんな氣配は少しも見えない。もう馴れたのか知れぬ。

切角御自愛の程祈る(終)  
(八・八・一六於成傍山麓)

南大門八月便り

暑い暑い一つになつて居たつて暑い、暑さのギャング、殺人的暑さとか云つて居た七月の猛暑も今はけろりと忘れて了つた八月。

朝鮮の氣候も段々内地のそれと似て來た朝鮮獨特の天候が見られなくなつたと會ふ人全てが云ふ。事實毎日毎日雨に降られて居ると内地の鬱陶しい梅雨期を想像してこんな言葉も出るさ。

朝鮮の稲作も植付當時の水の供給宜しく收穫も千九百万石は確實だ、いや二千万石突破だと農作飢饉の心配やら、大喜びやられたのも束の間

七月の猛烈な暑さに水は湯水收穫見込も千八百万石に降り而も八月に入つて相當照つて貰ひたいのがどうして、連日曇天雨天で日照不足收穫豫想は千七百万石に降下初めよく後悪き朝鮮稲作の狀態。

米は豊作金は無くとも豊かな朝鮮なんて言ふかと思へば農作飢饉出現朝鮮農民何處に生くべきかなんて云つて居るオエライ人間もござる。そうかと思へば内地のオエライお方は鮮米に移入税を課すなんぞと米穀制

統法なる大問題の漸く片がついたと思はれる此時期に而も收穫を前に控へて大きな波紋を描き出す言葉とも知つてか知らでか仰る、やはり暑さの加減かも知れぬと?

それはそうとどえらい景氣がやつて來たものだ平素高いと云つて居た蠶種が而も現金買にて羽が生へた穢に賣れる始末。鮮内至る處蠶種不足生産過剩に苦しんで居た全鮮の蠶種屋さんも三年目に漸く一息の態。それ

れに居ながらにして蠶種は買つて賣る代金は集めて貰へる此處の處蠶種家万歳と云ひ度い亦その鼻息たるや平素借金でびい／＼して蠶種代金の事ばかり云つて居たのも昔の夢とばかりどえらい勢で役所にやつてくる、今日此頃やはり世相は回轉する

か。全鮮繭價協定の協定もエライ方々が集つて秋蠶繭は絲價八百五十圓で三十三掛五分と決定。今の處養蠶方能農民は養蠶熱に浮かされて奨励もへちまもない。やるなと云つても養蠶をやると云ひ出す。景氣のよい仕事には勝たれぬ。養蠶万々歳だ。然しかかる變動は奨励の衝に當つて居る人々の困る事には違ひない。

朝鮮の農民、役所の言葉となると反對する癖がある、特に田舎の頑固な老人は。今度の秋蠶にしたつて相

だ春蠶後の桑園に肥料も呉れず

置

置

置

いて桑不足を見込んだ當局の掃立制...

満蒙産業學徒研究團第一回壯圖も...

成功かどうかは判らぬ後はその研究...

NEWS

放送局

澄宮殿下御奉送 みすゞかる高...

運動部夏季練習開始 暑中休暇...

辯論部の遠征 母校辯論部學生...

對東京高醫球技學校 本校行は...

新學期開始 九月十一日から新...

千曲會日記 八月十五日 故中村幸吉氏未亡人より別...

八月十六日 午前九時より母校生理學實...

甲慰金募集 本會々員坂本孝子氏(絲六)豫...

故中村氏御遺族 中村幸吉氏(舊姓玉置)御逝去に際し...

終身會費納入者 千曲會規則第九條第二項に依る終身...

住所移動 千曲會規則第九條第三項...

Table with columns for names and amounts, listing members and their contributions.

編輯室より 従つて締切前に頂戴した原稿でも...

千曲會規則第九條第三項 千曲會規則第九條第三項...

千曲會規則第九條第三項 千曲會規則第九條第三項...